

第 1 回刈谷市スマートシティ推進協議会 議事録

- 日 時：2022 年 10 月 4 日（火）9 時 30 分～10 時 30 分
- 場 所：刈谷市役所 8 階研修室
- 参加者：別紙のとおり
- 議 事：

開会

- 挨拶（企画財政部長）
 - ・ 定刻となりましたので、ただ今から「第 1 回刈谷市スマートシティ推進協議会」を開会する。
 - ・
- 開会挨拶（会長）
 - ・ 本日はお忙しいところ参加いただき有難うございます。
 - ・ 昨年 7 月から愛知県と研究会を立ち上げていた。4 回開催し、構成員の皆様から実証アイデアを出していただき、一部実証も始まっている。参加いただいた皆様には感謝している。
 - ・ 本日から推進協議会を立ち上げることとなった。協議会の役割については追って事務局から説明がある。
 - ・ スマートシティ推進は、皆さま方のご協力があっはじめて出来るものなので、ご協力をお願いしたい。
 - ・ 5 大公園の活用に関して、市民の皆様とのワークショップを開催している。雨の日でも楽しめる空間がほしい等の様々な要望をもらっている。また、都市交通分野では、「かりまる」の運行に関してご意見・ご要望を寄せていただいている。このような市民のご要望を受けて、どう対応していくか考えることが大事である。
 - ・ 昨日 T ポイントと V ポイントの合併のニュースもあったが、キャッシュレス化や地域通貨などの動きも意識して、刈谷市の今後のあり方を検討していく必要があると感じている。
- 新規会員紹介
(東邦ガス)
 - ・ お役に立てるよう活動してまいりたいので、よろしくをお願いします。
(中部電力パワーグリッド)
 - ・ 夏の節電にご協力いただき有難うございました。電気をお届けする会社であり、地域とつながっていることが強みなので、皆さまと協力して進めてまいりたい。グループ会社の中部電力、中部電力ミライズとも連携して取り組みたい。
(角文)
 - ・ 当社は、来年で創業 200 年を迎える。刈谷市銀座をはじめ名鉄刈谷市駅前再開発他の再開発事業に取り組んでいる。皆様方と既に連携させて頂いている部分もあるが、さらに一層関係を深めてよりよいスマートシティの推進に取り組んでまいりたい。よろしくをお願いします。

議題 1. 刈谷市スマートシティ推進協議会について

- 資料 1 刈谷市スマートシティ推進協議会について（企画政策課長）

- ・ まず、これまでの経緯だが、愛知県とスマートシティ研究会を立ち上げて、アイデアを検討してきた。その活動をさらに発展させて協議会を設立することとなった。礎となった研究会構成員の皆様には改めて御礼を申し上げたい。
 - ・ 設置要綱について説明していく。最初に協議会の設立目的だが、民間企業等との協働の下、ICT 等の先端技術を活用して持続可能なまちづくりを目指すスマートシティ の取組を推進することである。
 - ・ 活動内容は、記載のとおりである。メインとなるのは、（３）の課題解決策の検討と、（４）の実証事業の実施である。
 - ・ 構成は、刈谷市長が会長で、事務局を刈谷市企画政策課が務める。愛知県は、一會員の立場で引き続き参加いただく。
 - ・ 會員は、現在 16 団体。入会の要件は、會員の過半数の同意が必要となっている。今後新規の申し込みがあった場合には、メールで同意の依頼をさせていただく。入会要件を定めており、単なる情報収集目的の入会は望ましくないと考えている。
 - ・ 会議は、非公開とする。その理由は、活発な議論を促すため、世に出る前の開発中の機密事項を扱う可能性があるため、の 2 点である。
 - ・ 一方、議事録は原則公開としたい。その理由は、対外的 PR を促進するため、市民への情報提供と理解促進を図るため、の 2 点である。公開前に會員に確認を求め、了承を得たうえで公開する。
 - ・ 続いて、実証内容の検討および実証事業の実施について説明する。実証事業の内容を検討し、または実証事業を実施するため、必要に応じて専門部会を設けることができる。実証には 2 つの種類があり、1 つは、刈谷市が課題を提示しソリューションを募集する「課題解決型実証」、もう 1 つは會員の有する技術の実証フィールドを刈谷市が提供する「フィールド提供型実証」。前者については、刈谷市がソリューションの募集をし、審査を経て、ワーキングチーを組成する。ワーキングチームにて実証に向けて仮説を立てた後、実証実施主体としてコンソーシアムを組成する流れとなる。
 - ・ 秘密保持については、同意を得たときは、第三者に開示することができることとし、知的財産権に関しては、協議会の活動に関連して、會員が新たな知的財産権等に関する出願 等を行う場合は、あらかじめ協議会に報告の上、別途協議を行うこととしている。
- 今後のスケジュール
 - ・ 令和 5 年度は、協議会を 4 月と 6 月と 3 月の年 3 回の開催予定。第 1 回は年度計画・実証事業の説明、第 2 回は実証募集結果報告、第 3 回は・当年度活動報告、次年度活動方針、国プロ等の実証募集を予定している。
 - ・ 今年度は、11 月に第 2 回を開催するが、書面開催予定である。第 3 回は、構想案についてパブコメを実施したあと最終案をご報告する場とする予定である。
 - ロゴマークについて
 - ・ 刈谷市出身のデザイナー伊藤敦志氏にデザインを依頼し、作成した。
 - ・ 街中に技術・サービス・情報が広がっていくイメージを表現している。その中心には刈谷のイニシャル「 K 」を表している。また、4 色はそれぞれ、モビリティ（ページユ）、エネルギー・マネジメント（オレンジ）、医療・福祉・健康づくり（黄緑）、データ活用・魅力発信（紫）を表している。
 - 構想に対するご意見について
 - ・ 会議終了後、登録先のメールアドレスに様式を送付するので、記入した様式をメールでご返信いただきました

い。

議題 1.に関する質疑応答

- 議題 1 の質疑応答について（企画財政部長）
 - ・ 特段質問がないようなので議題 2 へ移りたい。

議題 2. 刈谷市スマートシティ構想（案）について

- 資料 2 刈谷市スマートシティ構想（案）（企画政策課長）
 - ・ なぜスマートシティに取り組む必要があるのか、背景を説明している。
 - ・ 人口減少、気候変動、インフラ老朽化など対応しなければならない課題が複雑化・多様化していることが背景としてある。また、スマートシティ研究会の活動の中で、今後、官民で更なる連携を図るに当たって、本市の基本的な考えと指針を示す必要があるということで、構想を策定した。
 - ・ 構想の位置づけについては、課題が複雑化しているため、これまでの縦割りのやり方では解決が難しいと認識し、横断的なやり方が必要ということで、総合計画の各分野において、分野横断的にスマートシティの取組を進める指針として位置付けた。
 - ・ 取組方針については、記載のとおり、新技術ありきではなく課題解決につながる実効的な取組を産学官連携で共に行い、安心・快適を市民が実感できるものとするため、「安心・快適を実感できるまちを共創する」を掲げた。
 - ・ 基本理念については、まず市が税金を使って取り組むのであれば、本市の課題解決を最優先するべきであり、行政だけで解決できないような複雑な課題は、民間企業と連携する、実証のための実証で終わるのではなく、市民の方がメリットを実感できるよう実装していく、という 3 つをあげた。
 - ・ 基本原則は、政府が策定したスマートシティ・ガイドブックを参考に刈谷市版にアレンジしたもの。
 - ・ 続いて、刈谷市の現状と特性を整理している。慢性的な交通渋滞、子育て世帯の市外流出、理科教育に力を入れていること、プロスポーツ・企業スポーツが盛んであること、ゼロカーボンシティを実現すべきこと、インフラの維持管理の効率化を進めるべきこと、防災・減災対策に取り組んでいかなければならないこと、などを記載している。
 - ・ これらは、刈谷市職員と企業様へのヒアリングをもとに作成したものである。
 - ・ 市民ワークショップを踏まえて、スマートシティのテーマを設定した。「子どもの未来」と「将来への備え」をテーマとして横断的に取り組んでいく。特定の分野に絞っていくのではなく、横断的に取り組むことが大事だ。
 - ・ 「子どもの未来」については、まちの魅力が高まり市民が地域に誇りを持つことで、子どもたちが未来に夢を持ち活躍できると考えている。利便性が向上すれば将来にわたって住み続けたいという人が増えていくのではないかと考えている。まわりに先端技術を活用した取組があり、それを目にすれば、今度は自分達で作っていききたいという子ども達が増えていくのではないかと考えている。
 - ・ 「将来への備え」、大きな災害にあっていない本市だからこそ、先端技術をつかって未然の対策ができるのではと考えている。ずっと安心・快適な暮らしを続けられるようにしていきたい。
 - ・ 自動車産業に支えられてきた本市だからこそ、既存作業で培われた技術、ノウハウ、人材が活用できることは、本市の強みでもありと考えている。

- ・ 取組イメージは、もう少し細かい表現となっているが、今後一般の人がみてもわかるようにイメージ化していきたいと考えている。
- ・ 推進体制/エコシステム、課題の提示～実証～社会実装につながるサイクルをまわすことにより、Win-Win の関係が成立するエコシステムを産学官共創で構築したいと考えている。エコシステムの中心にあるのは市民である。市民を中心として課題提示や、実証を行い、実装されていくことで市民生活の向上につながると考えている。
- ・ スマートシティの取組は今後変化が起ころうため、アクションプランに落とし込むのは難しいと考える。そのため、本構想は、基本的な指針を示すものとしている。とはいえ、おおまかなスケジュールを示すことは必要である。10年後の2032年には実装をある程度進めてスマートシティを地域に根付かせることを目標としたい。フェーズ1については、推進体制を確立し、機運の醸成を図りながら、実証事業を推進し、仮説検証を行う。フェーズ2では、実証を積み重ね、有効性を検証し、実装に向けた成功事例を増やす。
- ・ また、早期に実装できるものは順次実装を進める。フェーズ3では、分野横断的なサービスを市域全体に展開し、改善サイクルに乗せて評価・検証を行い、スマートシティを地域に根付かせる。

議題 2.に関する質疑応答

- 議題2の質疑応答について（企画財政部長）
 - ・ 特段質問がないようなので議題3へ移りたい。

議題 3. その他

- 今後の予定について（企画政策課長）
 - ・ 10月末までにご意見をいただき、その後、庁内での合意形成を経て、12月にパブリックコメントを実施する予定となっている。
 - ・ 第2回刈谷市スマートシティ推進協議会は、11月中旬頃、書面にて開催する。

閉会

- 閉会挨拶（会長）
 - ・ 新型コロナウイルス感染症が流行し始めてから2年半が経ち、社会経済活動・生活様式も変化する中で、スマートシティ始めカーボンニュートラルやSDGs、冒頭に申し上げた「五大公園」や「かりまる」など様々な行政需要が出てきた。
 - ・ 危機管理の面では、危機管理の面では、小学校体育館へは自立電源、都市ガス・LPガス併用の空調設備を設置して対応を進めているが、福祉避難所については、非常電源もなく、FCVからの電源供給など、電源喪失の場合の対応を研究するよう担当課に指示している。
 - ・ カーボンニュートラルについては、新電力会社を設立して、焼却場で発生する熱を利用して発電した電気を市内公共施設へ供給を行っていく。
 - ・ 市内部の情報化については、今年度から「情報システム課」を「情報政策課」に名称を変更しており、積極的にDXを進めていきたい。

- ・ 教育委員会については、タブレット端末の導入、電子黒板の設置を一気に進めた。全員が参加できる教育として有効性を感じている。
 - ・ 今後も、デジタル化、DX 化を積極的に進めていきたいと思っており、スマートシティはそれら全体のとりまとめの場になってくるため、協議会の皆様には是非ともご協力をお願いしたい。
- 挨拶（企画財政部長）
 - ・ 以上を持って、第 1 回刈谷市スマートシティ推進協議会を終了する。

以上

参 加 者	
1	株式会社アイシン
2	株式会社ジェイテクト
3	株式会社デンソー
4	トヨタ車体株式会社
5	株式会社豊田自動織機
6	トヨタ紡織株式会社
7	東海旅客鉄道株式会社
8	名古屋鉄道株式会社
9	西日本電信電話株式会社
10	NTTコミュニケーションズ株式会社
11	医療法人豊田会
12	愛知県
13	東邦ガス株式会社
14	中部電力パワーグリッド株式会社
15	角文株式会社